

全木連時報

5月25日(土曜日)
(第530号)〔毎月25日発行〕
平成14年(2002年)

発行所
社団法人 **全国木材組合連合会**
編集兼発行人 **後藤 隆一**
東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

定価 年500円

『全木連時報』の購読料は年会費に含まれています。

全木連・全木協連・木退共通常総会

凜とした雰囲気の中で盛大に開く

政府の経済報告では、「景気は底入れしつつある」との宣言を出したが、木材産業を取り巻く情勢にそのような実感がでてこない中で、第52回全木連通常総会、第42回全木協連通常総会及び木退共の本年度通常総会が五月九日、東京都港区の虎ノ門パストラルの会場に、全国から会員多数が出席して盛大に開催された。会場には、林野庁から加藤鐵夫長官、米田実次長はじめ関係幹部、また国土交通省から佐々木宏住宅生産課長はじめ関係幹部が来賓として出席。総会に花を添えた。そして別掲のように、三氏が挨拶し、木材産業の振興対策と取り組んでいる現状と課題を明らかにした。

全木連通常総会

新副会長に平方氏を選任



- 全木連総会は、理事会と併せ、午後一時三十分から開会。会議に先立ち、今春の勲章及び褒章受賞
- 受章をお喜び申し上げます**
- 平成十四年春勲章・褒章受章者（敬称略）
- ***** 勲五等瑞宝章 西島 甫 (福井県) *****
 - ***** 勲五等瑞宝章 牧野平四郎 (静岡県) *****
 - ***** 黄綬褒章 川島淳一郎 (福島県) *****
 - ***** 黄綬褒章 齋藤 敏 (長野県) *****
 - ***** 黄綬褒章 影山弥太郎 (静岡県) *****
 - ***** 黄綬褒章 伊藤 太助 (愛知県) *****
 - ***** 黄綬褒章 花尻 忠夫 (大阪府) *****
 - ***** 黄綬褒章 村上雅二郎 (広島県) *****

者名を後藤副会長が報告(氏名別掲)。開会の言葉を上地副会長が述べたあと、久我会長が挨拶(概要は別掲)。つづいて来賓の加藤林野庁長官と佐々木国土交通省住宅局住宅生産課長から挨拶が行われた要旨別掲。

久我会長が議長となつて、議事に入った。提出議案の「平成十三年度事業報告承認の件」これは、事務局から概要を説明し、原案どおり承認。の「平成十三年度収支決算報告の件」は事務局から説明後、監事の監査報告を受けて、原案どおり承認。

目次

- 一面 平成十四年度全木連・全木協連・木退共 通常総会特集
- 四面 景況調査

の「役員改選の件」は、各支部推せんの選考委員による選考委員の選考報告を受けて、原案どおり承認。

また、事務局の役員構成は従来どおり三人体制。(新メンバーは別掲)

「その他」のうち、第38回国木材産業振興大会の開催について、開催担当の上地東海支部長から、十月十七日、名古屋市の大会に関係者多数参加されますよつ、万全の態勢でお待ちしております。」と挨拶があった。

会長代理に庄司氏

なお、役員改選後、久我会長が発言、会長代理に庄司橙太郎副会長を推薦したい」と述べ、これを了承した。

最後に坂本副会長が閉会の言葉を述べて総会を終了した。

久我会長挨拶要旨

本日は、加藤林野庁長官、佐々木国土交通省住宅生産課長はじめ、多数のご来賓の皆様には公務多端にもかかわらず、ご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、先の政府経済報告では最悪の状況は脱したという分析が出されていますが、まだまだ厳しい状況が続いております。

そのため木材産業は、需要の落ち込み、価格の低迷、コストの増高等で深刻な経営不振におちいつています。

もちろんこれまで我々業界一人一人は生き残りをかけて血の出

るような自助努力を続けて参りましたが、これにも限界があります。このままでは木材産業の存立さえ危ぶまれる状況であります。特に地域の重要な産業であり、国土保全・温暖化防止に貢献する森林・林業の活性化に欠かすことの出来ない地域の木材産業は壊滅的影響を受けると考えます。今こそ行政当局による財政的、制度的支援が是非とも必要であります。

昨年成立した森林・林業基本法では、木材の利用推進の担い手である木材産業が森林・林業活性化にとって重要な役割を果たすもの

として位置付けられています。さらに木材生産目標が定められ、その目標達成のためには、木材産業の果たす役割は益々大きなものと考えられます。このためにも木材産業への具体的支援策をご検討いただくよう関係方面に要望しているところであります。

全木連と致しまして、昨年十二月、木材産業構造改革対策本部を設置し、構造改革に関する政策課題について積極的に取組むこととしております。

本日ご審議いただく議題は、何れも去る三月の理事会・総会においておおむねご了承いただいているものであります。

その中で、本年度も引き続き乾

燥材問題を重点課題として、推進していくことに致し、品質規格の明確な木材製品の普及になお一層取り組んで参ります。

また、新JASに関しては、制度の円滑な運営、新JASの早期定着、厳格な運用とJAS製品の普及に努めることとしております。

最近特に環境や健康に関する市民の意識が高まり、焼却炉から排出されるダイオキシン問題は大きな社会問題になってきております。

そこで全木連は木材産業が循環型社会に対応した環境適応型産業として展開していくための対応の方向を検討するため、今年二月「木屑の適正処理・木質バイオマス検討委員会」を立ち上げました。

出来るだけ早い時期にこの中間報告を出す予定に致しております。

先にご提案いたしておりました木材価格の表示方法の見直しにつきましては、検討委員会を設け間もなく検討を始めたかと考えております。

木材のセーフガードにつきましては、現在も各都道府県木連のご協力を得て製材工場のモニタリング調査を実施しておりますが、今しばらく、この調査を続け、需給・価格の動向を監視して参ります。

最後になりましたが、本年度の木材産業振興大会は十月十七日、東海支部担当のもとに、名古屋市内において開催されることになっております。以上、ご挨拶いたします。

全木協連通常総会

新副会長に並木氏を選任

恒例のように、通常総会は理事会と併せ、午後三時三十分開幕。会議に先立ち、今春の勲章及び褒章受賞者名を後藤副会長から報告があり、全員拍手で表彰者を称えた。

開会の言葉を向河原辰郎副会長が述べたあと、庄司会長が挨拶

(概要は別掲)。つづいて来賓の米田林野庁次長から挨拶が行われ(要旨別掲)。庄司会長が議長となつて議事に入った。

平成十三年度事業報告(案)と同収支決算及び剰余金処分案の二議題を事務局から説明後、拍手で承認。

平成十四年度事業計画(案)について後藤副会長が説明後、原

案どおり決定。

平成十四年度収支予算 同賦課金 同加入金 同借入金最高限度額 同役員報酬の四議案を事務局から説明して、原案どおり決定。

役員改選の件は、任期満了に伴い、行われることになり、各支部推せんを選考委員会の選考報告を承認のうえ、決定。

なお、副会長のうち平方力副会長(関東・群馬)に代つて並木瑛夫氏(関東・千葉)が選任された。また、事務局の役員構成は従前どおり三人体制(新メンバーは別掲)。

なお、副会長第一順位に、中谷弘氏(近畿・和歌山)が指名された。最後に岡田幸助副会長が閉会の言葉を述べて総会を終了した。

庄司会長挨拶要旨

本日、公務ご多用中のところ林野庁の米田次長様はじめご来賓の方々、そして会員多数ご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、九月に発生した

アメリカの同時多発テロは、経済の急速な減速を招き、アメリカのみならず世界経済に直接・間接に多大な影響を及ぼし、一段と先行き不透明感を増す中で今日に至つております。

わが国は、長引く不況で中小企業の製造業を中心に収益が大幅に減少し、さらに失業率も依然として高水準で推移しているなど、厳しい環境が続いております。

木材産業を巡る状況も、新設住宅着工の減少、木材需要の減少

と価格の低落、さらに品質・性能表示制度への対応の遅れ等を背景に、依然として製材工場等の倒産、廃業が高い率で続いております。

本日の総会は、こうした厳しい状況下で執り行うことになりましたが、本年度の事業は、これまでどおり全木連とスクラムを組みつ

つ、木材産業の構造改革を力強く積極的に推進していく所存であります。

さて、本会の平成十三年度の事業経過について概略ご報告申し上げます。

主たる事業であります利子助成事業、共済事業は林野庁はじめ会

員のご理解とご協力により、ほぼ計画どおり事業活動を推進することができ、お陰様をもちまして黒字決算となりました。ここにご報告申し上げますとともに、改めて厚く御礼申し上げます。

十四年度の事業計画につきましても、さる三月二十六日の臨時総会で、わが国の経済が当分の間、

好転すると予想しにくいという、住宅市場も明るい材料が見当たらず、木材需要も減少することが十分に予想される中で、木材産業構造改革に向けた新規事業として、木材産業体質強化事業、木材供給高度化設備リース促進事業、木材産業構造改革促進事業を全木連との連携のもとに消費者サイドに

軸足を置いて対応していくことを確認したところであります。

木材需要拡大のキーポイントは、なによりもこれまで以上に消費者への接近を図り、木材商品の情報をタイムングよく発信していくことにあります。

このため、全木連を中心に委員会を設置し、木材の価格、単位の

表示の見直しに取り組んでいくことになりましたので、会員の皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

最後になりましたが本会では、中型グループ保険等の共済事業など既存事業への取組みの見直しや財務の見直しなど様々な課題についても会員の皆様からの率直なご

意見に謙虚に耳を傾けながら、活力ある、より魅力ある団体を目指して頑張っておりますので、力強いご支援をお願い申し上げます。

(注)久我会長、庄司会長の挨拶全文は全木連ホームページに掲載中。
http://www.zemnok.jp

来 賓 挨拶 (敬称略)

実効性ある構造改革議論を

林野庁長官 加藤 鐵夫

住宅着工が減少し、価格がさらに下落するなど、木材産業をめぐ

「木材産業の体制整備に関する基本方針」を定め、これを踏まえて、各都道府県でも独自の構造改革プログラムを三月末までに策定されるところであります。今後はこれらに基づいて構造改革を進めたいと考えております。

ただ、構造改革については、以前から必要性が指摘されていたものであり、例えば乾燥材やJAS規格に関する問題も従来からの課題となつております。これは最終ユーザーと木材業界の意識にミスマッチが起きているからではないでしょうか。世論調査では木材や木造住宅が良いという人が八〇%

木材が使われる社会を作ることが社会全体にとって正しいことだと認識されるよう、我々も最大限の努力をしていく所存です。皆様にも一層のご努力をお願いします。

業界からも情報提供を

林野庁次長 米田 実

本来は価格が下落すると需要が回復するというのが定説ですが、

我々にとつても良質な木造住宅の供給は重要なテーマであり、木造住宅のPRを支援したり、工務店技術の工場に取り組んだりという施策を講じているところでありま

もいるのに、それが需要に反映されないという事実がそのことを物語っています。

今年度からは各都道府県が独自の施策を展開するわけですが、す

すべての都道府県が業界の事情に精通しているわけではありません。ぜひ皆様から地域の状況に関する情報を提供して下さいようお願いいたします。

ストック重視の住宅施策を展開

国土交通省住宅生産課長 佐々木 宏

国民の多くが木の家を建てたいと望み、実際に戸建て住宅の八割

今後の住宅施策はストック重視が大きな柱であり、長く使える良家を国民全体のストックとして、国民全体で活用し、国民全体の住

宅水準を向上させるといふ住宅市場を目指しております。その意味でも良質な木造住宅の供給が重要であり、皆様にはより一層のご支援をお願いしたいと存じます。

者百十八人だったことによるもの。このため、十四年度事業計画では、本年度の新規加入目標を事業者数五十、加入者数二百人とし、

木退共通常総会

重点事項は新規加入者対策

全木連総会・理事会と同時併行により議事を進行。

議案の 平成十三年事業報告は説明を省略し、原案どおり承認。

平成十三年年度収支決算は事務局の説明後、監査報告を受けて承認。平成十四年度事業計画は事務局の説明後決定。 の二つの議案は略。 役員改選は、選考委員会の推薦を承認した。(別掲)

なお、木退共の加入者は十三年度も減少しており、事業報告によると、十三年度当初三千百九十六人が十三年度末には二千八百二十九人になっている。これは、脱退者四百八十五人に対し、新規加入

者が百十八人だったことによるもの。このため、十四年度事業計画では、本年度の新規加入目標を事業者数五十、加入者数二百人とし、

景況調査 = 全木協

4月分集計表 ()内は実数

〔流通部門〕 モニター数131 回答数83 回収率63%

当月の状況

販売量	増加25% (21)	変わらず46% (38)	減少29% (24)
仕入量	増加19% (16)	変わらず46% (38)	減少35% (29)
販売価格	上昇0% (0)	変わらず76% (63)	下降24% (20)
仕入価格	上昇4% (3)	変わらず73% (61)	下降23% (19)

来月の見通し

販売量	増加12% (10)	変わらず72% (60)	減少16% (13)
仕入量	増加8% (7)	変わらず69% (57)	減少23% (19)
販売価格	上昇1% (1)	変わらず90% (75)	下降9% (7)
仕入価格	上昇1% (1)	変わらず88% (73)	下降11% (9)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	7% (5)	71% (51)	22% (16)
南洋材	2% (1)	73% (47)	25% (16)
北洋材	3% (2)	66% (42)	31% (20)
国産材	1% (1)	52% (35)	47% (32)
建材	6% (4)	69% (46)	25% (17)

乾燥材取引への関心度	高い	ほどほど	低い
	51% (39)	48% (37)	1% (1)

〔製造部門〕 モニター数114 回答数68 回収率60%

当月の状況

販売量	増加25% (17)	変わらず49% (33)	減少26% (18)
仕入量	増加15% (10)	変わらず50% (34)	減少35% (24)
販売価格	上昇0% (0)	変わらず71% (48)	下降29% (20)
仕入価格	上昇7% (5)	変わらず68% (46)	下降25% (17)

来月の見通し

販売量	増加18% (12)	変わらず60% (41)	減少22% (15)
仕入量	増加10% (7)	変わらず59% (40)	減少31% (21)
販売価格	上昇0% (0)	変わらず91% (62)	下降9% (6)
仕入価格	上昇7% (5)	変わらず83% (56)	下降10% (7)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	11% (4)	76% (29)	13% (5)
南洋材	0% (0)	81% (22)	19% (5)
北洋材	3% (1)	69% (25)	28% (10)
国産材	6% (3)	52% (27)	42% (22)

プレカットの動向

受注後、加工までの待ち時間	1ヵ月以内	1ヵ月	1ヵ月以上
	68% (15)	23% (5)	9% (2)

選任された新役員の主要メンバー

- 「全木連」
 会長 久我 一郎(大阪)
 副会長(倉代代理) 庄司橙太郎(東京)
 副会長 三津橋貞夫(北海道)
 駒井 満夫(東北・青森)
 平方 力(関東・群馬)
 上地 宏保(東海・北陸・愛知)
 田中 隆行(中国・四国・広島)
 坂本 喬(九州・福岡)
 市川総五郎(叢別・ロロング)
 後藤 隆一(事務局)
 専務理事 後藤隆一(事務局)
- 「全木協連」
 会長 庄司橙太郎(問屋)
 副会長(第一順位) 中合弘近畿・和歌山
 三津橋貞夫(北海道)
 小松 吉昭(東北・福島)
 並木 瑛夫(関東・千葉)
 向河原辰郎(東海・北陸・石川)
- 「木退共」
 会長 久我 一郎(大阪)
 副会長 小松吉昭(福島)
 庄司橙太郎(東京)
 後藤隆一(全木連)
 専務理事 後藤隆一(全木連)
 常務理事 斎藤義光(全木連)
- 「岡田 幸助(中国・四国・徳島)」
 野上 幸男(九州・宮崎)
 後藤 隆一(員外・事務局)
 後藤隆一(員外・事務局)
 角谷宏(員外・事務局)
 斎藤義光(員外・事務局)
- 常務理事 角谷 宏二(事務局)
 斎藤 義光(事務局)
 支部長 中合弘近畿・和歌山
 向河原辰郎(北陸・石川)
 門田 成耕(四国・高知)

お役に立ちます 林業信用保証

素材生産業・製材業・薪炭生産業・林業種苗生産業・きのこ生産業・木材卸売業を営む方々、木材市場開設者を対象に事業資金の債務保証を行います。詳しくは、当基金、都道府県林務担当課、関係団体の当基金相談員、もよりの金融機関へお問い合わせ下さい。

緊急対策資金(100%保証と無担保保証の拡充)につきましては、1ヵ年延長(平成12年3月31日まで)いたしました。

林材業専門の保証機関
農林漁業信用基金

後楽事務所(林業部門)
 副理事長 高橋 勲

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目7番12号(林友ビル5階)
 TEL 03(3813)5371(代表) FAX 03(3812)8842
 パソコン通信「緑のネット」専用回線03(3813)5106
 ホームページアドレス <http://www.mmjp.or.jp/kikin>